

# 中国の人口、失業問題の 中国進出日系企業への影響(その1)

富山県貿易・投資アドバイザー 梶田幸雄

## はじめに

数年前まで中国進出外国企業における労使紛争について、新聞などで報道されることが多かった。最近では、このような報道は減少している。しかし、労使紛争の件数が減少しているわけではない。中国の内資企業を含んで、労使紛争は毎年10%以上も増えている。

2004年の中国の貿易総額は、日本を抜いて世界3位になることが確実になった。輸出入合計は、1兆1,000億ドルにのぼることが見込まれている(2003年比30%増)。外国企業の対中進出は、活発であり、中国企業が海外に進出するケースも急増の傾向を見せ、世界的に著名といえるグローバル企業の出現しつつある。急成長を遂げる経済、企業の動向が注目されるあまり、この成長に内在される課題が見過ごされているといえるのかも知れない。

都市と農村、沿海と内陸における経済・所得格差が著しく拡大している。適正な所得分配がなされず、豊かな人民と貧しい人民という分極化が進んでいると考えられる。こうした課題の発現原因の1つに人口問題、失業問題がある。このことは、中国進出外国企業に何らかの影響を及ぼすことはないか。この点に関して、中国のカントリー・リスクは高まっているのではないかと懸念が生じる。

そこで、中国の人口、失業問題が、中国進出日系企業にどのような影響を及ぼすことがあり得るのかについて検討する。この問題を検討するに際して、第一に、(1)中国の人口問題について概観し、

第二に、(2)この人口問題から派生する問題として、人口移動と都市化の問題を検討し、第三に、(3)農村人口の吸収、就業問題と都市部における失業問題について検討し、第四に、(4)上記(1)~(3)の問題から派生する中国進出日系企業への影響について検討することにしたい。

## 1 中国の人口

はじめに中国における人口問題の全般的な課題について整理しておく。

中国における人口問題として取り上げられることは、以下の諸点である。第一に、(1)人口が約13億人と著しく多いことであり、このうち農村人口が多数を占めることから、貧困問題が少なからずあるということである。農村の貧困人口は、2,900万人にのぼる。第二に、(2)上記のことから人口移動と都市化の問題が緊急の課題となり、第三に、(3)これに派生して高い失業率の改善、社会保障制度の整備が求められている。

以上の点を中国国家统计局の『2003年国民経済和社会発展統計公報』(2004年2月26日)のデータから示しておく。

人口の自然成長率は6.01%と減少しているが、総人口は12億9,227万人にのぼる。出生人口は1,599万人、出生率12.41%である。

社会保障に関しては、全国で養老保険加入者数が1億5,490万人と2002年比753万人増加している。しかし、高齢化が急激に進んでおり、この保険金の確保も将来問題となる。また、2,235万人の都市住民が生活補助を受けており、2002年に比べて170

万人増えている。国有企業をレイオフされた従業員が195万人おり、彼らに対する基本生活費および社会保険費の支払いも国にとっては大きな負担となっている。失業保険受給者数は、415万人である。

表1 2003年の主な人口構成

位：万人

	年末数	構成比率(%)
全国総人口	129,227	100.0
うち：城（都市）	52,376	40.53
郷村（農村）	76,851	59.47
うち：男性	66,556	51.50
女性	62,671	48.50
うち：0 - 14歳	28,559	22.1
15 - 64歳	90,976	70.4
65歳以上	9,692	7.5

(出所) 中国国家统计局『2003年国民経済和社会発展統計公報』2004年2月26日

- (注) ①現在、男女の出生比率の不均衡が大きな問題となっている。1970年代、中国の男女出生比は正常範囲(女性100に対し男性103 - 107)であったが、80年代からこの比率が崩れ始め、2000年の第5次国勢調査では、119.92と、1990年に比べ8.5ポイント増加した。現在では、人口の9割を占める24の省・自治区・市で軒並みこの値が110を超えている。こういった状況を踏まえ、国家人口計画生育委員会は、2003年から「女児を大事にする運動」を始めた(三浦正道「人口問題を抱える新しい難問」『コラム、現代中国放大鏡』<http://www.chinavij.jp/koramu151.html>)。
- ②人口抑制もさることながら、今後の中国の人口政策で重要視されているのが、“人口素質”(人口の質)の問題である。2003年に南開大学で開催された「歴史上の中国人口行為」国際学術研究討論会で、中国では歴史的に男尊女卑の観念が強く、明代には、江南地区を中心に女の赤ちゃんを間引くことが流行したことが報告された(前掲注①)。
- ③上記の表から明らかとなっており、高齢化問題も深刻になるだろう。

中国政府は、2005年の総人口を13億3,000万人以内に抑制することを目標にしている。それでもなお、2030年には14億5,000万人になる(中国は、これをピークとしたい考えであるが。)

## 2 人口の移動と都市化の問題

1990年以降、市場経済化の傾向が強くなり、外国企業の沿海都市への直接投資などが急増したところで、農村人口が都市部に移動する出稼ぎが急増した。これが「民工潮」といわれるものである。北京や上海などの大都市では、都市に戸籍のないものが総人口の30%以上になるともいわれている。

中国農業部の「農村労働人口流動状況調査(2002年版)」によると、農村人口は4億8,000万人で、うち農業従事者が3億2,000万人であるが、農業生産に必要な労働力は1億7,000万人であり、余剰労働力が1億5,000万人いる計算になる。

国家统计局は、今後人口移動の自由化が進めば、2001年から2010年の間に毎年1,760万人、10年間の

合計で1億7,600万人が農村から都市へ移動し、2011年から2020年の間には、1億5,200万人が移動すると推定している。

農村における余剰労働力を非農業と都市に移動させることが、工業化と都市化を進める上で必要なことであるというのが、中国の認識である。内陸の中等都市の都市化が進展し、現在の余剰な農業従事者を吸収できればいいのだが、都市化の進展は必ずしもスムーズに入っていない。そこで、農村人口の都市への流入が急増しているというのが現状である。

そこで、都市において新たな問題が発生している。そもそも都市部でも国有企業をレイオフされた労働者が少なくなく、必ずしも満足な有効求人数がない。そこへ農村部から低廉な労働力が入ってくると、単純な労働については農村出稼ぎ者により占有され、都市部の就業要員の就業機会がますます減少するということが生じている。

また、大量の農村出稼ぎ者の不法流入があるということがある。北京市の幹線道路、ビジネス街などでは、近代的な高層建築物が林立している。しかし、その陰では市街中心地でも依然として少なからぬ「胡同」がある。「胡同」とは、「四合院」という庭を囲んで、四方に建物を配置した伝統的住宅街にある路地をいう。庶民が行きかう横丁である。ここには、まだ昔の北京の風情があり、保存したいものである。しかし、一部廃墟となった胡同に地方からの不法労働者が入り込んでいる。胡同の社区委員会の掲示板には、“嚴打不法流入”の貼り紙も見られる。

北京建国門外の外交官アパートの付近に秀水街(Silk Alley)という通りがある。秀水街は、前述の通り个体戸が軒を並べ、これも多くがテント程度の店構えのアウトドア市場である。ここは、主にシルクの服装を扱う商店(个体戸)がひしめき合っている。今、この个体戸を撤去し、その後には大規模の現代的モールに建替えようという計画(プロジェクト)が進行している。秀水街で働く売り子にも一部不法流入者がいるといわれている。地元住民からは、治安悪化を心配する声が上がっているというのが一つの理由である。(つづく)